

## 第4回 目黒区生物多様性地域戦略（仮称）策定検討委員会次第

日時：平成25年10月3日（木） 午後6時30分から

場所：目黒区総合庁舎地下1階 第17会議室

区長あいさつ

- 1 開会 委員長
  - (1) 傍聴及び議事録について
  - (2) 委員の出欠について
  
- 2 議事 委員長
  - (1) 「中間のまとめ」に対する区民意見と素案に向けた対応の方向性について  
資料 1-1、資料1-2、別資料 区報
  
  - (2) ア これまでの検討委員会の意見と検討事項の確認 資料 2
    - イ 生物多様性を言い換えた言葉（委員会の呼び名の変更）について  
（「目黒区ささえあう<sup>いのち</sup>わ<sup>わ</sup>生命の輪 計画策定検討委員会」（案））
  
  - (3) 計画（素案原案）について 資料 3
    - ア 計画のテーマと名称について （P39～P47）
    - イ 将来像と目標について （P49～P56）
    - ウ 施策
      - 取組1 野鳥のすめる環境の創出に向けた取り組み（P58～P63）
      - 取組2 親しむ・ふれあう・学ぶ暮らしの創出に向けた取り組み  
（P64～P66）
      - 取組3 伝える・連携する・まちづくりの活動に向けた取り組み  
（P58～P63）
    - エ 地域別の取り組み（エコロジカルネットワーク） （P69～P82）
    - オ 配慮事項について （P83～P84）
    - カ 進み具合の確認 （P85）
    - キ 資料編・その他全般について
  
  - (4) その他 資料 4
    - ア 別資料について
    - イ 今後のスケジュール等について
  
- 3 第5回 検討委員会の日程について  
次回 平成26年1月16日（木）午後6時30分から  
以 上

(会議配布資料)

- 資料 1 - 1 懇談会・イベント等の実施結果について  
資料 1 - 2 「中間のまとめ」に対する区民意見と素案に向けた対応の方向性
- 資料 2 委員会意見への対応集約表(更新)
- 資料 3 目黒区 生物多様性地域戦略(素案原案)  
「ささえあう<sup>いのち</sup>生命の輪<sup>わ</sup> 野鳥のすめるまちづくり計画」
- 資料 4 これまでの経過と今後のスケジュールについて

(その他資料)

- 別資料 ・目黒区 生物多様性地域戦略  
「ささえあう<sup>いのち</sup>生命の輪<sup>わ</sup> 野鳥のすめるまちづくり計画」《中間のまとめ》  
・目黒区報 7月25日号
- 別資料 第3回会議録
- 別資料 動植物調査(夏季)速報(抄)
- 別資料 意見の追加提出用紙

以 上

懇談会・イベント等の実施結果について

	中間のまとめ懇談会	めぐろいきもの学校		駒場野 フォーラム2	中目黒公園	菅刈公園	碑文谷公園
日程	8月5日(月)	8月17日(土)～18日(日)		8月4日(日)	7月21日(日) 8月10日(土)	7月27日(土)	8月24日(土)
時間	19:00～20:30	9:00～18:00	10:00～12:00	10:00～12:00	10:00～12:00	10:00～12:00	10:00～12:00
内容	講演会 懇談会	講演会・トークセッション パネル展・ワークショップ	まちあるき (17日 ハニーウォーク) (18日 街で発見! 生物多様性)	生物多様性・ 未来マップの作成	夏休み親子 虫捕り教室	自然観察会	自然観察会
講演等の 内容・講師	基調講演 「60年間の いきもの変動」 独立行政法人 国立科学博物館付属 自然教育園名誉研究員 矢野 亮 氏	「自由が丘とまちづくり」 自由が丘商店街振興組合出版企画部長 西村 康樹 氏  「昆虫のおはなし」 日本甲虫学会会員・目黒区自然通信員 上田 衛門 氏  「めぐろのいきものたち」 目黒区  「生物多様性って なに?」 日本自然保護協会 IUCN(国際自然保護連合)日本委員会 道家 哲平 氏  「生物多様性と江戸野菜」 環境カウンセラー 消費生活アドバイザー 早野 木の美 氏  「トークセッション ～50年前の目黒といきものたち～」 別記	まちあるき 「ハニーウォーク」 自由が丘商店街振興組合事務局 井ノ口 晃子 氏 日本甲虫学会会員・目黒区自然通信員 上田 衛門 氏  まちあるき 「街で発見! 生物多様性」 自然観察指導員・目黒区自然通信員 市田 淳子 氏 日本甲虫学会会員・目黒区自然通信員 上田 衛門 氏	明治大学農学部教授 倉本 宣 氏	いきもの池・原っぱ クラブ 農学博士 高家 博成 氏	NPO法人 菅刈ネット21 東京大学総合研究 博物館 昆虫標本室 須田 孫七 氏	碑文谷公園くらぶ 東京大学総合研究 博物館 昆虫標本室 須田 孫七 氏
協力	明治大学農学部教授 倉本 宣 氏	明治大学農学部(パネル展等) 産業能率大学(パネル展等) エコライフ目黒(ワークショップ等)	エコライフ目黒				
会場	目黒区総合庁舎 2階 大会議室	フィナンシャルオアシス自由が丘 (あおぞら銀行) 1階オアシスルーム	自由が丘会館 ミツバチ飼育場のビル 自由が丘スイーツフォレスト ピーコック自由が丘店 自由が丘熊野神社	駒場野公園 自然観察舎	中目黒公園 花とみどりの学習 館	菅刈公園	碑文谷公園
参加者数	19	250(まちあるき参加者を含む)	まちあるき 計 52 (17日 27、18日 25)	10	50	50	40
別記	「トークセッション ～50年前の目黒と いきものたち～」	参加者 自由が丘商店街振興組合理事長 目黒区自然通信員 岡田 一弥 氏	参加者 自然観察指導員・目黒区自然通信員 市田 淳子 氏 参加者 日本甲虫学会会員・目黒区自然通信員 上田 衛門 氏	参加者 (コーディネーター) 日本自然保護協会 IUCN(国際自然保護連合)日本委員会 道家 哲平 氏			

# 野鳥のすめるまちづくり計画中間のまとめ意見募集イベント(記録)

## ●自然観察会 公園未来マップづくり(菅刈公園 7月27日)



## ●駒場野フォーラム(駒場野公園 8月4日)



## ●中間のまとめ懇談会 講演「60年間の生き物の変動」(目黒区総合庁舎 8月5日)



## ●夏休み親子虫捕り教室(中目黒公園 7月21日・8月10日)



●めぐろいきもの学校ハニーウォーク～まち歩き～(8月17日)



●めぐろいきもの学校野菜ウォーク～まち歩き～(8月18日)



●めぐろいきもの学校トークセッション(8月18日)



●パネル展(あおぞら銀行 8月17日~18日)



●ワークショップ(あおぞら銀行 8月17日~18日)



( はちみつせっけんづくり )



( どうぶつ折り紙 )



●いきもの発見隊(碑文谷公園 8月24日)



## 委員会意見への対応集約表(更新)

	論点	意見概要	現在の対応
1	目黒区 の 原 風 景 を ど の よ う に 扱 う か	<p>第1回 矢野委員： 目黒区周辺の本来の森林の姿は常緑樹林であり、これもふるさとの風景であると思う。雑木林だけではなく、鎮守の森のような常緑樹林も加えてよいのではないか。</p> <p>第1回 上田委員： 自然を回復するということに、どの自然に回復するのかという問題もある。</p> <p>第1回 委員長： 人間がいない状態に戻すことはできないので、人間にとって住みやすい環境も考慮に入れて今後の議論を進めたい。</p> <p>第1回 委員長： 都市部では、生物の入れ替わりも起きており、人為的な影響の良否は、増えた鳥の種類、減少した種がいないかなどを慎重に分析する必要がある。</p> <p>第2回追加 副委員長： 「ア 目黒区の原風景をどのように扱うか2) 検討の方向性」にある「常緑樹林の価値を再検討する」という記述と、同項目の表中にある環境区分との関係がよく理解できなかった。・指標種という種アプローチに加えて、指標种群という群集アプローチもこれだけデータがあれば検討に値する。</p> <p>第2回追加 副委員長： ・里山の暮らし方は目黒区に残っているか、また復活するための情報は記録されているか。地域の伝統的文化の内容を詳しく知り、里山の暮らし方と関連付けて検討したい。</p> <p>第2回追加 早野委員：目黒区の原風景の扱いでは、昭和初期を想定とあるが、具体的な映像が浮かばない。「見える化」という言葉があるが、原風景の写真の共有や学生から理想とする緑の風景の作品を募集、表彰し、風景に一定のイメージを描かせたりすることで、将来構想も具体的に描けると思う。 1</p>	<p>常緑樹林の価値を再検討する。</p> <p>いきもの气象台観察ノート(2011年目黒区)の環境区分を利用する 原風景はこの7区分を利用する。屋敷林に社寺林の区分を加え、常緑樹林も含む。 P.11 目黒区が目指す自然との共生の在り方を考える。</p> <p>人の手で育まれてきた環境(風景)も含め、多様な環境が混在していることも都市の自然特性としてとらえる。 回復目標の時代を想定する。 およそ80年前の昭和初期の、人と自然の接し方などを想定する。 P.42,49 人間にとって住みやすい環境と生物多様性が確保された環境とのギャップを検討する。</p> <p>生き物が増えることは、時に不快な面があることを区民に周知する。例えば、桜の木を街路樹で植えるときれいな花が咲き、視覚的に美しいという面と虫や鳥が集まり、糞の被害などが発生するという負の面がある。</p> <p>不快性や、人に対して害を与える生物についての考え方はを記述する。 本資料項目12(有害な生物の扱いの考え方)</p> <p>郷土研究誌の中に、かつて、雑木やま、杉やま、茅やまなど、里山を想起する地域の呼称があった旨の記述がある。なお、駒場野公園では地域の参加で炭焼きが行われている。</p> <p>かつての目黒の風景の画像を掲載する。 P.9</p>

2	目黒区が目指すべき環境像は？ (生物多様性のイメージ)	<p>第1回 上田委員： ミクロの生物の世界では大木1本にも生物多様性がある。このような多様性の保全も重要である。</p> <p>第1回 西村委員： 人が自然にどう手を加えるべきなのか難しい。</p> <p>第1回 矢野委員： アオオサムシ等の地表性の虫やこれを捕食するヒキガエルなどの普通種が減少している。生態系の上位に位置するカラスが多いことの影響が懸念される。</p> <p>第1回 上田委員： 大きな屋敷が取り壊され庭の緑が減少する事例もあり個人宅の庭に依存している目黒区の緑は危機的な状況にある。</p>	<p>何を守るべきか = 大木、土壌生物、野鳥、伝統、里山の暮らし方、暮らしの知恵等重要な戦略は何か</p> <p>普及啓発、教育(初等教育は、生物多様性に配慮した暮らし方に作用する)、協働行動指針(施策)</p> <p>我々の生活が、地域の生物多様性、さらに広範囲の生物多様性にどのように関係するのかを整理する。特に重要と思われるものに限定し、掘り下げる。</p> <p>一本の木、一鉢の花、身近な自然から生まれる「生物多様性にやさしい」暮らし・活動・まちを目指す。</p> <p>目標の設定、施策の展開の中で特に重要視していく。 P.54~56,58</p> <p>カラスについては、記載する(項目12)</p>
3	生物多様性という文言について(代替できるやさしいことば)	<p>第1回 市田委員： 「生物多様性」に代わる言葉を作れないか？</p> <p>第1回 委員長： 一般の方に分かりやすい言葉でタイトルを付けてもよいのではないか。「自然のめぐみ」などはどうか。</p> <p>第1回 石川委員： 「人といきものが共生する街づくり」というのもよい。</p> <p>第1回 委員長： 「街づくり」など都市型であることをアピールする言葉が入っていた方がよい。</p> <p>第3回 矢野委員： イラストになぜライオンが入っているのか。</p> <p>第3回 上田委員： 日本のいきものを表した方がよい。</p>	<p>いくつかの案を検討し、委員会の名称、地域戦略の名称等へ反映する。</p> <p>サブタイトルとメインタイトルの二つで表す。</p> <p>「まちづくり」の視点を入れる</p> <p>生物多様性に替わるわかりやすい言葉」への転換</p> <p>今回提案した。 P.47</p> <p>ライオンをタヌキに変更。 P.47</p>
4	生物多様性をどう評価(計る)するのか。指標はどうか。	<p>第1回 上田委員： 生物多様性をどのような計るのか。</p> <p>第2回追加 矢野委員： 最近東京では、暖地性の植物の増加やチョウの温暖化による北上現象がみられている。生物季節では春の花の早まり、秋の紅葉の遅れなどがみられるため生物の変動の記録を長年</p>	<p>指標種については再整理し、自然再生に向けた目標種(希少種、アンブレラ種、象徴種等)などとして計画内に掲載する。</p> <p>例 キビタキ、モズ、メダカ、オニヤンマ、クワガタ類、トノサマバツタ等</p> <p>自然環境回復目標種・維持種、親しまれている身近な生物種などについて、これまで</p>



		<p>取り続け、都市化と生物の実態も明らかにしたい。</p>	<p>のデータを活用して質や変化の指標化を図り、生物多様性の評価を行う。生物以外の指標も検討する。</p> <p>自然通信員等の野鳥やチョウの指標種の地域別(小学校の通学区域)分布状況、変化等の観察記録を基礎データとして活用する。また、区が有する地表性の昆虫などの専門調査データを、自然性の指標とする。</p>
5	生物多様性の教育・啓発について	<p>第1回 委員長： 都市はいわゆる豊かな自然がある場所ではなく、啓蒙や教育などが重要になる。これが、郊外との違いとなる。</p> <p>第1回 渡島委員： 子供にも自然のつながり(鳥と虫の関係など)を理解でき、実際の活動につながるようなものとしたい。未来を担う子供達に理解させることが重要である。</p> <p>第1回 早野委員： 緑に触れる機会の少ない生活をしている方、関心のない方にも関心を持ってもらいたい。土地を持たない方もいるため、机の上で植物を育てるなどの発信も必要ではないか。</p> <p>第1回 市田委員： 野菜や魚を買うといった消費行動にも生物多様性は含まれており、都市生活者がどのように自然の恵みを享受しているかを感じることも含めてほしい。</p>	<p>原体験としてのいのちの大切さ、いのちのつながりの気づき</p> <p>日常の空間でのふれあいの機会と場の創出</p> <p>小学校、中学校など学校教育での取り組み</p> <p>消費活動、食育、地産地消等の取り組み</p> <p>等を計画内で重視。</p> <p>日々の暮らしの中で、特に子どもたちと自然の関りを再構築</p> <p>目標の設定、施策の展開の中で特に重要視していく。</p> <p>計画の方針等で重要視し、全体にわたり対応した</p> <p style="text-align: right;">P.44</p>
6	野鳥について	<p>第2回 矢野委員： 鳥の場合は人間から距離のある生き物である。ツバメにしてもシジュウカラにしてもウグイスにしてもそうである。ところが、虫の場合は非常に近くに接することができる。それから、観察会でも子供たちは虫が好きである。したがって、鳥と虫をうまく組み合わせると良い計画ができるのではないか。</p>	<p>計画は、区民によく知れ渡る必要があることから、わかりやすい分類として、「野鳥(鳥類)」を選択し、昆虫なども含むすべての生物の「代表」として設定した。</p> <p>昆虫類など、いきもの80選など、区民に親しまれている身近な生物も活用する。</p> <p style="text-align: right;">P.45</p>
		<p>第2回追加 副委員長： 区内で記録された種の分析を行う必要がある。これまでに行われたことを知りたい。</p>	<p>整理中。鳥類等主な分類群は、記録種一覧を計画本編または資料編に掲載予定。</p>
		<p>第2回追加 矢野委員： 鳥は人間との距離があり、また個体数も少な</p>	<p>野鳥をすべてのいきものの代表として扱うが、他の生物との関係を生態系の視点で</p>

		<p>く接触頻度がやや低い。チョウは比較的人気も高く、庭や公園などに幼虫の食草や蜜源植物を植えれば身近に観察できる。チョウが増えれば、クモ・カマキリなどの捕食者も増え、これらを捕食する鳥類のすめる街づくりへと繋がる。「蝶が舞い小鳥がさえずる街づくり」を提案したい。</p>	<p>記載し、鳥が生息するためには小動物や植物の存在が重要であることを伝える。また、いきものつながりの中で、野鳥に意識を向けることのできる親しみ安い施策(エロジカルネットワーク)等を工夫する。 P.61,63,71</p>
		<p>第2回追加 早野委員： 野鳥の名前が分かる人は少ないので、ヤモリ等のように身近な生き物に関心を集めるのはどうか。ヤモリは吸盤ではなく、手足の裏にある剛毛が持つ「ファンデルワールス力」でへばりついている。人類は自然界に潜む不思議な能力を分析し、生活に応用してきた。今回のプロジェクト関わっている理科の先生方の力も借りたい。</p>	<p>親しまれているいきものとして施策の中で活用する。 P.64</p>
7	将来像と目標「野鳥のさえずりが聞こえるまち」	<p>第3回 副委員長： 50年後の目黒区の姿が「さえずりが聞こえる」というのは控え目に感じる。</p> <p>第3回 上田委員： 「野鳥の豊かなさえずりが聞こえる街」などはどうか。</p> <p>第3回 市田委員： 「さえずりが聞こえる」というよりは、内容的に種数が増えることや、前にはいた野鳥が戻ってくるといった感覚が表現できるものがよい。</p> <p>第3回 矢野委員： 「たくさんの野鳥」など量的な表現をすれば、今よりも多くなっていることを示す表現になるのではないか。</p> <p>第3回 早野委員： ふと立ったときに、遠くから鳥のさえずりが聞こえてくるというイメージの方が絵になる。</p>	<p>未来像を「野の鳥の歌が聞こえるまち」とした。 野鳥の種類数や個体数ではなく、人間の意識が介在している様を表現するためにあえて「歌が聞こえるまち」とした。人々が自然の声に気づくことを目指している。文中では、現在では困難であるが、目指すべき将来の目標として自然再生における目標種として象徴種を導入した。例えばキビタキは、植栽後100年経過した森である明治神宮で近年繁殖例がある樹林性の野鳥である。 P.49</p>
8	将来のすがた	<p>第3回 市田委員： 将来のすがた1と将来のすがた2は別々の位置付けなのか。</p> <p>第3回 上田委員： 将来のすがた1は点、2は面の状況と理解で</p>	<p>「(3) 将来の私たちの暮らしのイメージ」として1つにとりまとめた。 P.49~50</p>

		<p>き、そこに副題が上手く合うようにしてはどうか。</p> <p>第3回 矢野委員： 将来のすがた1は人間主体、2は自然主体であり、入り混じっているのもう少しスッキリさせてもよい。</p>	
9	施策(公園整備)	<p>第2回 上田委員： 計画の目標の中で、一人当たりの面積拡大とあるが、生物多様性では“土”が重要である。したがって、公園はできるだけ“土”のある公園にすることが生物多様性の観点から重要と考えられる。</p> <p>第2回追加 副委員長： 目標3の公園面積だが、生態系にとっては実面積が大事だと思う。</p>	<p>生物多様性を考える上で、各種施策で土が重要であることを区民に知らせ、区民や活動団体の自主的な活動に際し、土についても配慮してもらおう。また、生物多様性配慮指針において、土の確保について言及する。量の確保とともに質の向上を図る、といった表現にする。</p> <p>P.58</p>
10	エコロジカルネットワークの形成について	<p>第1回 副委員長： エコロジカルネットワークは、陸、水、空を利用する生物によって異なると考えられるが、全て同じように取り扱うのか？特定のものに着目するのか？</p> <p>第1回 石川委員： 鳥をとおして地域の自然や環境に視野を広げることでも可能ではないか？</p> <p>第1回 委員長： 生物多様性としては全ての生物を取り扱うべきであるが、観察しやすいものを指標とせざるを得ない。区がこれまで指標としていた鳥以外に指標として想定されるものがあればご提案いただきたい。</p>	<p>野鳥やチョウ類をシンボルとして、広域的なゾーンから、街区、個々の敷地にいたるまでエコロジカルネットワークの形成を図る。</p> <p>P.70 隣接区の動植物現況、活動施策のネットワークを抽出する。隣接区における指標種の確認状況は整理済。</p> <p>P.70(掲載予定) 野鳥、チョウ、地表性昆虫などの指標を用いる。環境基本計画の指標種もしくは80選から選定された指標種を活用。</p> <p>ネットワーク形成の阻害要因を抽出する。道路による地表性動物の移動分散の阻害など、目黒区で考えられる事例を抽出。</p> <p>整理中。表として記載を予定 生物の生息環境となりうるビオトープ、緑地、公園などを整備する施策を提示する。</p> <p>P.69～地域別計画に記載</p>
		<p>第3回 委員長： 「エコロジカルネットワーク」という表現を使っても良いが、最初に出てしまうと戸惑う人も出てくるのではないかと。説明文の中に、エコロジカルネットワークというのはこういうものであるというのがハッキリ書いてあれば良い。</p> <p>第3回 市田委員：</p>	<p>イラストで表現することを重視する。 用語は、説明を加えることで対応予定</p> <p>P.69</p>

		文章より図とか絵の方がわかり易いと思う。 第3回 西村委員：わかり易くするのであれば「動植物のネットワーク」などが良いのではないか。	
11	施策 (郷土種)	第2回追加 副委員長： 郷土種の植栽と関連して雑種を作る近縁種の植栽を慎むように配慮する場所（駒場野公園等）を決めた方が良い。なお、雑種の実生が成長しなければよいとも思える。	生物多様性保全林の指定等の施策と絡めて記載をする予定。なお、地域の活動とも調整が必要。 ・「栽培・植栽を避けた方がよい種類の植物リスト(特定外来生物)」を追加する予定。
		第3回 委員長： 資料6の「郷土種」とは何を指しているのか。	以下の文献を参考に郷土種のリストづくりを進めている。 P.59 ・目黒区の潜在植生（目黒区産動植物 目黒区の植生概観 曽根伸典 より） ヤブツバキ群綱：シラカシ群集、スタジイ群落 ブナ群綱：アカマツ群落、クヌギ コナラ群集、ミズキ ヒサカキ群落、ミズキ シロダモ群落、ムクノキ エノキ 群集など ・緑の実態調査（H16）より、目黒川崖線に多い種 ・「東京都の野生生物種目録」（東京都環境保全局,1998）
		第3回 委員長： 緑化するとき出来るだけ外来種は使わずに在来種を使うという内容が入ると良いと思う。 第3回 副委員長： 元々、本来目黒区にあるべき自然を戻していくということを、どこかに分かるようにしてもらえれば良いと思う。 第3回 副委員長： 「郷土種の植栽」には種の系統にも配慮するということは入れられないか。 第3回 委員長： ダイレクトに記入することで運用上問題が生じる場合は、括弧書きなど、記載方法に工夫することもありうる。	「郷土種の植栽の推進（地域の系統にも配慮）」として対応した。 P.59 「栽培・植栽を避けた方がよい種類の植物リスト(特定外来生物)」を追加する予定。

12	施策(外来種の取り扱い)	第3回 上田委員： 外来種を排除する考えはあるか。	以下のような内容の記述を盛り込むことを検討している。 (有害な生物の扱いの考え方) 自然界の中ではすべての生物は役割を果たしていることを認識した上で、人間の影響で環境変化が進んだ結果、地域本来の生態系を大きく変質させてしまう生物や人間にとって危険な生物、有害な生物については、被害を発生させないように努めていく必要がある。
13	施策(啓蒙活動)	第3回 上田委員： 野鳥の名前を知ることによって野鳥に関心を持つことができる。 第3回 委員長： 鳥をシンボルとして、鳥を知ってもらおうということは非常に大切なことだと思う。年齢層に応じた効果的な普及の方法を検討し、普及活動をしてもらいたい。	説明型表示板(メディアボード)を活用することで盛り込んだ。 P.61
14	施策(みどりの散歩道)	第2回追加 市田委員： 目黒の自然を考えると、神社・寺・個人の庭・学校・公園が挙げられる。現存する「みどりの散歩道」を活かして、修正していくのが現実的であり、「みどりの散歩道」を見直し、愛知ターゲットと照らし合わせながら施策を進めていくのがいいと思う。	みどりの散歩道の活用など、歩くことの施策を重要視する。 P.55
15	施策(実現していくための工夫)	第3回追加 石川委員： 植栽の方向性などの計画を実現していくための工夫や知恵について施策追加の提案。	「幼稚園、小、中学校の花壇や畑、田んぼ等の土の面積を増やす」対応。 P.60 「屋上緑化・壁面緑化など新たな手法によりみどりを楽しむ」対応。 P.65
16	施策(地域の文化等)	第2回追加 副委員長： 民俗や文化財関係の方から里山や地域の文化や技術の伝承について聞きたい。	めぐろ歴史資料館に協力を求める
17	施策(連携)	第2回追加 副委員長： 東京都公園協会管理の都立公園に対してもっと区からの要求をあげていくといい。東京都で展開しようとしている都立公園の生物多様性のプロジェクトのなかでも地元の区との連携が委員から提案されている。	計画作りに関わっていただくことを打診した

		<p>第2回追加 副委員長： 区立ではない学校（事業者のようなもの）に対しても、自分のキャンパスとその周囲の自然に目を向け、消費行動を考え、目黒区の活動にも参加したくなるように誘導していきたい。</p>	<p>連携施策の中で検討する</p>
18	<p>文言の整理・定義</p>	<p>第1回 上田委員： これまで目黒区が使っている「いきもの」という平仮名での表現がよい。第3回 市田委員：「いきもの」という表現の中に植物は入らないのか。</p>	<p>（対応済） 「いきもの」とは人を含むすべての生物を表現する言葉として定義した。（素案原案 第2編 第1章 1 - 3）</p>
		<p>第2回追加 副委員長： 活動と伝えるのは少しニュアンスが違うように感じるが、伝えるに代わる言葉は見つからない。活動の方を代えて参加・参画でもいい。</p>	<p>「伝える」には、活動の継続と文化の伝承のような意味を持たせてあり、基本行動に展開している。 P.67</p>
19	<p>調査結果について</p>	<p>第2回追加 矢野委員： 資料6 平成24年度の各種調査結果の「地表性昆虫調査の結果の表」について「地表性昆虫」も「アリ」も一応土壌動物図鑑に含まれている。次の「土壌動物」はベートトラップで収集された土壌動物が何を差しているのかわからないが、「その他ダンゴムシ？」など代表種で示したほうがよいと思う。</p>	
		<p>第2回追加 矢野委員： 資料3-1の「生物ネットワーク拠点」の図だが、樹木と草本の種類数の構成だけだと左の小さな公園ほど緑が豊かであると誤解されやすい。いろいろなデータがあると思うので、公園の面積、管理方法、森林構造、草地の種類、園芸種・外来種・在来種などの比率など別のものさしで分析するとチョウや鳥の種類数と環境の違いがもう少しはっきりするのではないかと。チョウ・鳥ともに種類数はかなり高い値となっている。「 年から現在までの 年間に記録された全種類数」と書いた方がよい。</p>	
20	<p>「80選のいきものたち（仮称）」の作</p>	<p>第2回追加 副委員長： 一般区民へ早く情報の提供をするために、ダイジェスト版を区のHPで閲覧できるようにするとよい。</p>	<p>学校の先生に協力を求め編集作業を進める</p>

	成について	<p>第2回追加 早野委員： 80種類の生き物が選ばれたので、第1位のヤモリだけに焦点を当てるのではなく、主人公はヤモリ、舞台は林試の森や神社の緑の中で暮らす80選のいきもの達の世界を物語にして展開してみてもどうか。例えば、懇談会では居住区ごとにグループを作り、ワークショップを行い、小学生や中学生が展開する話を、高校生や大学生が受けて絵本のような世界に仕立てる作業は時間と手間はかかりますが、愛着のあるものが生まれてくるように思う。</p> <p>第2回追加 矢野委員： みんなで選んだいきもの80選のトップ「ヤモリ」の『ゆるキャラ』について 名称候補「ヤモリン」又は「ヤモン」などかわいいものにする。目は黒。行動は忍者の如く敏速。夜は光る。手や体にマジックテープをはりつける。特技：抱擁（ハグ）・しっぽ切り再生・虫捕り。</p>	<p>できる内容は未定だが、イベント等に活かす ヤモリを含めた80選のいきものの啓発等への活用については施策の中に記載</p> <p>P.64</p>
21	懇談会について	<p>第2回 委員長： 委員は講師として参加することも考えられる。また、参加希望者ができるだけ気軽に参加できるものが望ましい。</p> <p>第2回 西村委員： 親子連れイベントが良い。商店街の自然、住宅地の自然、公園の自然といったように色々なテーマがあっても良い。</p> <p>第2回 早野委員： 環境ナビゲーター参加者の活動の場となれば良い。</p> <p>第2回 市田委員： 商店街は生物多様性を考えるうえで、キーワードとなる。八百屋、魚屋で売っている商品がどこから来たのかについて懇談できる場も重要と考える。</p> <p>第2回追加 副委員長： 懇談会は委員が分担して参画したい。</p> <p>第2回追加 市田委員： 懇談会では、都市の消費者としての視点や、</p>	

	<p>目黒に残すべき伝承すべき文化についても触れられるようにしてほしい。都市型の生物多様性保全をより強調できればと思うが、その場合、参加者には「生物多様性」ということを理解しにくいのではないか。その部分をフォローしながら伝えられるといい。</p> <p>第2回追加 早野委員： 懇談会を夏休みに設定し、小学生から大学生までの意見交換会が開催されることを期待する。グループ討論の機会を設けるなど、出席者自身が参加したことに満足感を覚えるような懇談会にしたい。</p>	<p>区民が参加しやすく、生物多様性の普及啓発にもつながる、地域や参加団体の特性を活かした懇談会とする。</p> <p>懇談会の区民参加対象を、親同伴の子どもたちから参加可能とする。</p> <p>委員の参加やかかわりもお願いしていく。</p> <p>実施いたしました。</p> <p>結果は、実施写真を含め計画内に反映します。</p>
--	--	--

(第 回：会議回 追加は会議後の追加意見)